

国語科学習指導案

場 所 2年A組教室

学 級 2年A組(男子11名,女子14名,計25名)

指導者 教諭 佐藤 修一

1 単元名 5 事実と意見

中心教材 「モアイは語る—地球の未来」(光村図書『国語2』)

補助教材 「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍『新しい国語6上』)

2 単元について

(1) 中心教材について

本教材は、イースター島の事例を基に、「人類が生き延びるためには、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。」ということを主張している説明的な文章(論説文)である。

また、この文章は、「モアイは語る—地球の未来」という題名から、「モアイ」がどんな「地球の未来」を語っているのか、書いてある内容を予想させ、その予想を確認させるために、本文中の「地球の未来」を考えている文を探させながら読ませていくことにより、初読段階での目的意識をもたせることが可能な文章であると考えられる。

さらに、本文中の「地球の未来」を考えている文の中から、「筆者がこの文章を通じて、読者に考えてほしいこと」や、「筆者がこの文章を通じて主張したいこと」を探させることで、文章全体を3つのまとまりに分けることができるため、序論(問題提起)・本論(具体的な事例)・結論(筆者の主張)という尾括型の文章構成をしっかりとおさえることが比較的容易な文章であると言える。

1年で学習する説明的な文章「未来をひらく微生物」では各段落の役割、2年の「モアイは語る」では説得力のある論理的展開の仕方、3年の「生き物として生きる」では、さらに自分の意見を深める、といった系統化した学習となっており、環境問題や生命といった題材を通して、論理的文章の構成や根拠となる事実や問題提起について段階を追って読み取り、自分の意見を説得力のある表現で書いたり話したりすることができるようになることをねらいとしている。

(2) 生徒について

本学級の生徒は意欲的に学習活動に取り組んだり、国語の学習に興味や関心をもって取り組んだりする生徒がいるものの、「読むこと」の学習では、語彙力、思考力、表現力についての個人差が大きい傾向がある。また、言語活動に取り組むという点についても、どのような学習を行えばよいかを自ら考えて深められる生徒と、どのように取り組んだら自分の考えが生かせるかわからない生徒と様々である。

生徒が興味・関心や必要感をもち、「できるようにもっとがんばって読んでみよう」「努力したら今までより、よく読み取ることができるようになった」「こうしたらもっと自分の言いたいことが表現できる」などの主体的、積極的な生徒の心の動きが伴うような授業を構想したい。

(3) 指導について

指導にあたっては、次の2点に重点をおきたい。第1に、事実と根拠を正確に読み取るとともにそれに対する筆者の主張について自分の意見や感想を明確にし、それを表現することができることの楽しさを味わわせたい。第2に、地球規模の深刻な課題である「森林資源の大切さ」についてさらに関心を深めていくために、「イースター島にはなぜ森林がないのか」(鷲谷いづみ)の内容と比較しながら、筆者の研究内容や主張について根拠を学び、自分なりの考えをもたせたい。

また、具体的な学習活動として①単元の学習計画を学習者自身が知ることで主体的に取り組ませる、②音読を多くし、文章をしっかりと読み込ませる、③漢字の読み書きや使い方、語句の意味や使い方を正しく理解させる、④説明的な文章の文末表現や接続詞の使い方に着目させ、表現活動の参考にさせる、⑤グループ活動を取り入れることにより、協力する態度や話し合いの力を高めることの5点に留意して指導を進めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 論理的な文章を読む楽しさを味わい，新たな発見や驚きなどを通じて，地球の未来に対して関心をもって読もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(読むことウ)
- (3) 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫することができる。(書くことイ)
- (4) 語句の効果的な使い方について理解を深め，表現に役立てることができる。(言語事項)

4 単元の指導計画

- (1) 「モアイは語る－地球の未来」【4時間】
 - ① 単元の学習計画及び学習目標を知る。中心教材の全体の構成を考えながら，問題提起や結論を述べている文を把握する。 1時間
 - ② 中心教材の文章構成，筆者の主張とその根拠をとらえる。 1時間
 - ③ 補助教材の筆者の主張をとらえる。 1時間
 - ④ 二つの文章を比較し，筆者の主張への理解を深める。 1時間 (本時)
- (2) 根拠を明らかにして書こう 意見を伝える【5時間】
 - ① 環境問題について立場を明確にし，文章構成を工夫して意見文を書く。 4時間
 - ② 意見文を読み合い，意見や感想を交流する。 1時間

5 本時について

- (1) 目標 二つの文章を比較し，共通点と相違点を整理することにより，筆者の主張への理解を深めることができる。

(2) 本時の構想

本単元で，必要感のある主体的な言語活動の場と考えたのは，「自分の考えをもった上で他者と交流する」場面である。前時は，筆者が「森林は文明を守る生命線である」と主張する「モアイは語る」での学習を生かして「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み，筆者の主張をとらえた。二つの文章の相違点と共通点について気付いたことについて，グループや全体の場で交流することにより，二人の筆者の主張への理解がより深まるのではないかと考える。

研究に関わって，本時では，以下の点に留意し授業展開を考えた。

①意欲をもたせる工夫

二人の主張が比較しやすいような板書をし，二人の結論が同じであることに気付かせることによって，環境問題が人類にとって切実な問題であり，真剣に考えなければならないという気持ちをもたせる。

②グループを用いる必然性

二つの文章の相違点と共通点にはさまざまな意見が出ることが予想できる。一人一人の考えを出し合い，それを整理する上で，グループでの交流が有効である。

(3) 具体的評価規準

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する生徒への支援)
国語への関心・意欲・態度	すすんで相違点と共通点を発表し，班員の考えをまとめようとしている。	すすんで相違点や共通点を発表している。	相違点や共通点を見つけられるよう，個別に助言する。
読む能力	根拠を示しながら，分かりやすく自分の考えを説明している。	二人の筆者の主張の共通点について，自分の考えをまとめている。	自分の考えのまとめ方について，個別に助言する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の指導・支援	◇留意点 ◆評価
導入 7分	1 前時までの学習の確認 2 本時の課題確認	1 前時までの学習内容を確認する。 2 課題確認	1 二つの文章構成表を提示する。 2 本時の学習の流れや学習のねらいについて確認する。	◇文章構成表と同じものをワークシートにして配布する。
二つの文章を比べ、気付いたことを交流し、筆者の主張について理解を深めよう。				
展開 40分	3 課題解決 ①個人での二つの文章の比較 ②グループでの交流 ③全体での交流 ④学習のまとめ	3 二つの文章を比較し、内容を検討する。 ①二つの文章の相違点・共通点を比較し、ワークシートに記入する。 ②個人で見つけた相違点・共通点を出し合い、整理する。 ③グループの話し合いで整理した意見を発表する。 ④二人の筆者の主張に共通していることは何か、自分の考えを書く。	3 文章構成表を中心に比較させ、自分の考えをまとめさせる。 ①相違点から見つけさせ、活動状況を確認した後、共通点を見つける活動に取り組ませる。 ②相違点と共通点に分けて用紙に記入させる。 ③出された意見の中で注目すべきことについて指摘する。 ④文章の書き方やキーワード等について助言する。	◇相違点・共通点の見つけ方、ワークシートへの記入の仕方について具体的に示してから活動に取り組ませる。 ◇グループでの交流の進め方や用紙への記入の仕方について指導する。 ◆すすんで相違点や共通点を発表しようとしている。 ◇相違点はあるが、二人の主張が同じであることに気付くようにする。 ◆二人の筆者の考えについて自分の意見をまとめている。
終末 3分	4 振り返り 5 次時の予告	4 振り返りシートに記入する。 5 これまでの学習を生かし、環境問題に関する意見文を書くことを知る。	4 学習課題について達成できたか記号で記入させる。 5 二人の筆者の主張に応える意見文となるよう意欲付けを図る。	◇筆者の主張について理解を深めることができたか確認する。

